

春日部市立江戸川小中学校の学校経営方針

学校教育目標

- ❖ 自ら学び、考える子 (確かな学力)
- ❖ 心豊かで、思いやりのある子 (豊かな人間性)
- ❖ たくましく生きる元気な子 (健やかな体)

目指す学校像: 伝統に学び、未来の地域へつながる江戸川小中学校

- 1 生き生きと学び、活気あふれる学校
- 2 安心して過ごせる学校
- 3 信頼され、愛される学校
- 4 地域の伝統や文化を学び、大切に受け継ぐ学校
- 5 児童・生徒・職員一人一人が気持ちと力を尽くす学校

目指す子供像

- え** 笑顔であいさつする子 (基本的生活習慣)
前: 元気にはっきりと
後: 自分から感謝の気持ちで
- ど** 堂々と考えを伝えられる子 (思考力・表現力)
前: 周りに聞こえる声の大ききで
後: しっかり聞きわかりやすく
- が** 頑張りぬく子 (確かな学力・体力)
前: めあてを持って
後: 集団への貢献も考えて
- わ** わかりあう子 (思いやりの心)
前: 自分や仲間を大事に
後: 自分や仲間のよさや立場を大切に

目指す教職員像

- ◎ 子供の気持ちに寄り添って子供にやる気を起こさせる教職員
- ◎ 常に研究と修養に努め自ら学び続ける教職員
- ◎ 学校や地域の一員として寄与しようとする教職員
- ◎ 教育に携わる者としての矜持を持ち続ける教職員
- ◎ 理想を追い求め、率先垂範する教職員
- ◎ 教育関係職員としての使命を自覚し、信頼される教職員

義務教育学校運営の重点指針

- 1 義務教育9年間を見通した系統的で継続的な学習指導による学力・体力の向上
- 2 異学年の交流活動や体験的な学習活動による豊かな人間性や社会性の育成
- 3 個々の子供の実態を踏まえた共通認識に基づく方針による指導・支援の推進
- 4 地域の特性を生かし地域との協働による特色ある教育活動の展開
- 5 個々の教職員の魅力を活かした指導体制の活用

◆ 学校経営の重点目標

1 確かな学力の向上

- (1) 9年間を見通した系統的、継続的な指導により、小中の教員が協働して児童生徒理解に努め、一人一人の学力向上に取り組む。
- (2) 5・6学年に、教科担任制（過半数の教科）と50分授業を導入するとともに、1～4学年においても一部の教科で教科担任制を導入して、専門的な学習指導の充実を図る。
- (3) 児童生徒を多くの目で見守り、共有された「学力観」「指導観」「評価観」のもと、系統的、継続的な指導に基づき、今日求められる学習指導を実践する。
- (4) 家庭との連携を含め、「わかるまで学習する」という意識と態度を児童生徒に定着させる。

2 豊かな心の醸成

- (1) 進路・キャリア学習を軸にして、夢と希望をもち、自分も仲間も大切に作る児童生徒を育成する。
- (2) 後期課程道徳等の授業の質を一層高かめて、均衡の図られた豊かな心を涵養する。
- (3) 各種学校行事を通して、豊かな情操と協調性を育むとともに、マナーや節度を心得た態度を涵養する。
- (4) 9年間を見通した各種体験活動、異年齢交流、及び道徳教育等を通して、豊かな人間性や社会性を涵養する。
- (5) 地域と協働して地域の伝統、文化、特性などに関する学習活動を推進し、地域のよさを継承し、地域に貢献しようとする意欲や関心、また態度を高める。

3 たくましく生きる体力の向上

- (1) 9年間を見通した保健指導と体力向上プログラムの活用によって、個々の児童生徒に適した体づくりを推進する。
- (2) 異年齢集団による体育的な活動を通して、互いの発達段階を理解し合いながら、協動的に粘り強く活動に取り組む態度と根気強さを育む。
- (3) 新体力テスト結果の経年変化を学校全体〔教職員及び児童生徒〕で共有し、学校が一体となって児童生徒の体力に関する課題の解消を促進する。

◆ 重点目標に対する取組

(1) 確かな学力の向上

- ① 各ステージの学習指導の指針を次の通り設定する。
ジュニア・ステージ：主に学習内容と学び方の基礎を身に付ける。
ミドル・ステージ：主に基礎的・基本的な学習内容を身に付け、意欲的に学ぶ態度を涵養する。
ハイ・ステージ：身に付けた基礎的・基本的な学習内容を土台にして発展的な課題解決力や主体的に学ぶ態度を高める。
- ② 9年間の系統性や連続性を踏まえた各教科等の年間指導計画を作成し活用する。
- ③ 授業のねらいを児童生徒に明示し、児童生徒の学習状況によりよく応じる手立てを準備した授業を実践する。
- ④ 教材や指導方法（令和6年度は「知識構成型ジグソー法」：前年度から継続）等に関する組織的な研究を推進し授業改善を促進する。
- ⑤ 次の事項を授業力向上の重点事項とする。
 - Chromebookの効果的な活用
 - 協働的な学習形態[知識構成型ジグソー法]の積極的な導入と活用
 - 導入課題（問題）の吟味
 - 相互授業参観と学力向上強化の各期間の設定
 - 各種学力調査結果の分析と指導方法の工夫への活用
- ⑥ 発達の段階に即した「家庭学習の手引き」の作成とその活用による家庭学習の習慣化。

(2) 豊かな心の醸成

- ① 積極的な生徒指導とプッシュ型の家庭との連携によって、児童生徒の心地よい居場所づくりに注力する。
- ② 児童生徒に対する「見守り」「ことば掛け（励まし・称賛・承認・受容・助言）」の充実を図る。
- ③ 児童生徒の道徳的実践力の向上を目指して、特に次の点に留意した道徳教育に取り組む。
 - 一人一人を大切にされた教育活動（授業等）
 - 教材の吟味や開発と議論する道徳を実現する指導法の研究
 - 後期課程道徳における学年担当全教員（輪番制かつTT）による授業実践
- ④ 夢を育む豊かな体験的な学習活動の充実のために次に取り組む。
 - 地域のよさや魅力を理解し伝統行事に積極的な参加とそれを継承しようとする態度と実践力の涵養
 - 人としての優しさを醸成するボランティア活動の奨励
- ⑤ 自身の適性を知り、夢を抱き実現を目指そうとする生き方に気付く多様な体験的な学習活動の整備
- ⑥ 児童生徒の自律性、協調性、献身性、リーダー性等の涵養促進。
 - 後期課程学級活動における学年担当全教員（TT）による授業実践

(3) たくましく生きる体力の向上

- ① 様々な感染症予防対策の徹底。
- ② 体育的な諸活動の適切な質と量の担保。
- ③ 外部専門機関との連携による前期課程水泳指導の充実。
- ④ 部活動の質的な充実と効率的な活動の推進。

(4) 家庭・地域と学校の協働

- ① 学校運営協議会の機能を生かした質の高い学校運営の推進。
- ② 適時適切な保護者との連携の充実。
- ③ HPや配信メールによる適時性のある情報発信や情報提供の実現。
- ④ 各種アンケートの実施等による学校への保護者の期待等の掌握。
- ⑤ 学校運営協議会、学校後援会、及びPTA等の各組織のネットワーク化による「社会に開かれた教育課程」の充実と促進。
【重点事項】● 地域の伝統・歴史（祭礼、史跡） ● 地域人財（教育力）
- ⑥ スクールバス運行に係る関係課、子供の安全を守る会、及びPATとの確実な連携・調整による児童生徒の安全確保。
- ⑦ 学校評価及び学校関係者評価の各結果を反映した学校運営の改善促進。

◇ 発達の段階を踏まえた「3つの『ステージ[STAGE]』」

ステージ	学年	重点目標	具体的な手立て
ジュニア [Junior]	1～4	繰り返して学び、活動する経験をとおして、学校生活全般についての基礎・基本を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・学級担任制の授業 ・1単位45分の授業 ・4学年の児童生徒会活動への参画（一部） ・発達の段階に即した「(学校)生活のきまり」の作成と運用 ・一部教科での教科担任制による授業
ミドル [Middle]	5～7	身に付けてきた学校生活全般についての基礎・基本を踏まえながら、様々な活動に取り組んだり、意欲的に学んだりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・5、6学年：学級担任制と教科担任制の併用による授業 ・7学年：教科担任制による授業 ・1単位50分の授業 ・発達の段階に即した「(学校)生活の約束」の作成と運用 ・児童生徒会本部への参画 ・6、7学年：自由意思による部活動への参加
ハイ [High]	8・9	これまでに身に付けたことを土台にして、仲間とアイデアを出し合っによりよい学校生活をつくり出したり、協調的、主体的に学んだりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制による授業 ・1単位50分の授業 ・一部の教科における習熟別授業 ・進路、キャリア学習の充実 ・自由意思による部活動への参加